

# A. 授 業 研 究

都築 亨 矢木 修 中村 玲心 鈴木 一悠

飯島 幸久 中村 明彦 鈴木 克彦 山本 岩男 安田 知加

## I. 基本を養い表現意欲を高める英語指導

### —中学3年生 自由英作文の指導—

鈴木 克彦

#### 1. はじめに

英語を自由に話したいという夢と現実のギャップから英語嫌いが増えているという問題意識を持ち、「誤りに対して教師が徹底的に寛容になる」ことで英語の表現意欲を持たせようとした。

85年度「英語・絵日記の指導」86年度「誤りを気にせず書かせる創作文指導」を通じ、生徒に英語で表現してみようという意欲を掘り起こす指導を行ってきた。

86年度の指導での問題点として次のような事柄が挙げられた。(1) 自由英作文の指導が日常の授業からの発展形態となっておらず、分離している。(2) 基本の学習の裏付けがやや不足している。(3) 「書く」だけでなく、「聞く・話す」領域での指導の可能性はある。

そこで、これら86年度までの実践の反省点を踏まえつつ、本年度の指導方針、方法、とくに日常の授業に何を盛り込んできたかを述べていきたい。

#### 2. 指導実践報告

##### (1) 基本方針

昨年度は、創作文を書かせるときの基本方針を伝達したい内容に重点を置き、語句や語法上の誤りに寛容な態度で接することとした。この基本方針に変わりはないが、基本の学習と家庭学習の習慣化をより徹底させること、また日頃の授業に英語で表現しようという生徒の意欲を喚起することを下位目標として追加したい。

##### (2) 生徒の実態

本校の生徒は抽選で選抜されるわけだが、英語とい

う教科で見ると成績中位グループの層が厚く、上位・下位の者の層は薄い。上位グループの生徒では非常に英語への関心が高い者が多い。全般的に見て、英語を好きだとする者は多いが、学習態度は受動的になりがちである。

2年生のときに主に長期の休業中の課題として自由英作文を書かせた。間違いを恐れず出来るだけ多くの英語で表現させようとしたものだったが、ある程度の成果は挙げたものの、上位生徒の英文に予想以上に誤りが多いこと（使用語数も多いので必ずしもマイナスの評価は下せないが）、下位生徒の基本学習が不足してはいないかという疑念などから、授業ではより一層基礎基本の学習を充実させたいと、この種の活動に取組ませたいと考えた。

##### (3) 指導計画

東京書籍 New Horizon Book III を使い、生徒の身近なことを表現するのに相応しい題材を選び自由英作文を書かせる。表現活動をさせる題材と内容は下記の通り。これらの自由英作文は家庭で書いて来させる。

題 材	自英作文の題
Lesson 1 Spring is Here	① My Town ② School Excursion to Takayama & Chirihama
Lesson 4 Mike's Summer Camp	③ Summer Vacation
Lesson 8 My Aunt in London	④ My Trip

この自由英作文は昨年度と同様に①習った英語を使って書けるだけの英語を書きなさい。(勿論精一杯書いたのなら1行や2行の長さでも構わない。)②

誤りを恐れず書きなさい。間違いがあってもこのプリントについてはマイナス点にはしません。ということを生徒に周知させ、作文を書かせた。これは「正しい英語で」「きっちり(まとまりをもたせる)」と書かねばならないという心理的圧力をかけないことを考慮した留意点である。

作品の処理はできるだけ口頭で発表させる。また、必ず教師のコメントをいれた事後指導プリントを出す。

## 資料

### Why Don't You Come to My Town?

この前の「英語の手紙」をまとめてみました

(M.Higami) My town is in the center of Nagoya. There are some old family Buddhist altar shops and some book shops near the station.

(仏壇を英語で family Buddhist altar という。おもしろいね。)  
(Teramoto) My town is in the east of Nagoya. My home is near Heiwa Koen. Trees and grass are very green but they wither in winter. It's not very happy.

(寺本さん香のつつじや桜をカラフルにイラストで表現してくれました。)

(A.Mera) There is a zoo near my house.

(かばやらくだのイラスト入りの手紙でした。)

(E.Tsuboi) Dear Sherlock

My town is in the south of Nagoya. Atsuta Shrine and A big company, Brother are near my town. I'd like to go to London.

(シャーロック・ホームズに手紙を出すとは、さすが坪井君ですね。)

(H.Kakihara) There are many slopes in my town. So I am very tired when I get on a bicycle.

(中原テレビのあたりはさつぱり坂ばかり。でも、シュー・アッパには良いから)  
(U.Saka) My town is between two big rivers, the Kiso River and the Ibi River. We can fish there in Spring (いいねえ。そう言えば先生も以前よく木曾川の橋から釣り糸をたらしめたものだ。)

(K.Kouhata) My town is in the middle of Nagoya. There are a citizen hall, a science museum and an old canal.

(文化施設に近いというのはいいですね。)

(M.Tsunekawa) My town is in the west of Nakagawaku. There is a very dirty river.

(汚い川とは中川運河のことかな。昔は泳げるくらいにきれいだったそうだがね。)

(H.Nomura) I live in the far west of Nagoya. My town looks like the country. The center of Nagoya is very noisy, but my town is quiet.

Nagoya Airport is near my house. I sometimes go there, but I have never got on a plane.

(空港が近くていいねえ。世界に通じる窓がすぐ近くにあるようなものだ。)

(C.Mizutani) I live in Midoriku. It's small, but the grass is green and beautiful. There are a lot of birds and cats. They are wild.

(野生化した猫までいるとは驚いた。緑区だけに緑がいっぱい。)

### (4) 1時間の授業の構成

\*指導過程の内、○印のものは「1. はじめに」の内、(1)自由英作文指導のために日常の授業で指導したこと(2)基本の学習を考慮したものである。

#### ①英語の挨拶・会話

1, 2年生で学習させた語句、表現を使い英語で天気、きのうのこと、英語について、休日、スポーツなどについて質問した。1, 2年生で既習の語句について題材別に分類し直した。これにより生徒は自分たちで自由英作文を作るときに参考にさせることをねらった。ただ、口頭でのやりとりなので記憶に残らないようだ。メモさせるとか、題材別単語リストを渡してやってもよい。

### ②本時の学習での単語の扱い

高校1年で grammar を教えて思ったことだが、品詞の区別、とりわけ副詞/形容詞の区別があいまいな生徒が多い。中学生レベルだと日本語の訳に惑わされることもあって、助動詞/動詞/形容詞の区別がつかない。

そこで、品詞ごとに flash card の文字を、2年生では動詞(赤)とその他(黒)、3年生では8品詞(8色)で色分けしてみた。上位生徒には単語の分類が発音練

\*(A.Nishigaki) I live in Nakagaw

of the largest wards in Nagoya.

<中川区が名古屋で一番大きい区なんですか。知らな

\* (I.Ikeda) My town is in the far

<そうだな。富田町というやっぱり far がいるね

\* (O.Nan-ya) My parents run a dru

<みんな薬は両谷堂で買おう。よくぶくよ。>

\* (N.Yamada) My town is in the so

small, but there is a big park.

A lot of flowers are beginning t

<何公園があるんだっけ? さつさとかつつじとかが

\* (T.Akahori) My town is in the

can come to my town by subway.

minutes from Nagoya Station.

There is a big "Torii"

Station. It's the largest "Torii"

<我が町に日本一のものがあるとはうらやましい。>

\* (Y.Sanada) I live in Tenpaku.

big hospital.

<天白に大きな病院ってあつたか?>

\* (N.Saito) I live in Atsuta-ku.

big park. There are many bfg and

<熱田神宮に近いと初詣出が楽でいいね。>

\* (T.Maeda) My town has a lot

buildings, but there are not many

<君んちは都会だね。刈谷にもこの頃大きなマンション

\* (C.Yamamori) My town is in the

town is very quiet, because

country. But I like my town. My

park. I hope the big park will s

<熱田区に大きな公園ができるの?いいね。>

\* (N.Nonoyama) My town is small, b

Because Shinkansen stops at Na

very near from my house.

<刈谷でも今新幹線の駅を作っている。もうすぐ刈

\* (M.Hattori) It is very hot in

winter is very cold.

<名古屋って暑いんだよ。先生も君に同感。それで

\* (A.Suzuki) My house is near Pac

<パチンコの発祥地は名古屋だぜやあ。知つとつた

\* (M.Ando) My town is in the cen

習をしながら身につくと好評であったが、下位生徒にはあまり細かい色分けは返って混乱させることもあった。また用法をも同時に学ばせるために、これも身近なことを話題にした文例を提示したが、時間がかかり過ぎることがしばしばあった。そのため、単語を導入しつつ、本文の概要に触れるという方法をしばしば取った。\*注 名大附属中では英語の予習は一切させずに授業に臨ませている。

[例1 Lesson 3で単語を導入しながら本文の話題に触れていく。]

T: Let's practice the new words. Please look at the bottom of the page 9. The first word is 'guest'.

手順	学習活動	ねらい(★)と留意点(☆)
○1	英語の挨拶や簡単な会話	★授業の warming up. ☆1. 2年生で指導した表現を用いて質問する。
2	前時の本文の和訳	★家庭学習(対訳ノート作り)と関連づける。 ☆時間をかけずにさらりと流す。
3	本時の学習	
○	1) 単語 〔例1 参照〕 2) 本文の概要把握  3) 本文の聞き取り  4) 内容について日本語の質問  5) 教師の範読に続いて本文の音読	★発音、意味だけでなく、用法も理解させる。 ☆見近な内容で新出の単語を含む英語の質問を与え、用法を理解させる。 ★口頭導入の英語を聞かせ、概要を把握する力を養う。 ☆時折英語の質問を挟み、聞くことに集中させる。 ★ネイティブの発音に慣れさせす。 ☆聞き取りのポイントを2~3述べてから聞かせる。 ★概要を聞き取りで把握させる。 ☆5W1Hを聞くように心掛けさせる。
○	6) 基本文や重要表現の学習 〔例2参照〕 7) テープに続いて音読 8) True or False 9) 本文について、対話文にしたり英語でまとめたりする 〔例3参照〕	★正しい発音、抑揚を印象づける。 ☆単語や文の読みかたを教師のやや遅めの範読に続いて読ませる。 ★身近なことについて言わせたり、書かせたりすることで、表現する意欲や内容を掘り起こす。 ☆ネイティブのスピードに慣れさせる。 ★聞く力をつけさせる。 ★まとまった文章を「書く」力を身につけさせる。 ☆「2) 本文の概要把握」をもとにプリントを作成する。
○4	課題：授業ノート、練習ノート (対訳ノート)	★家庭学習の習慣化をねらう。 ☆授業中は和訳はしないが、家庭で考えさせてくる。何度も単語や文を書く練習をさせる。

Everyone, please repeat after me.guest. (フラッシュカードの英語の部分を見せて)

S: guest.

T: This is Mr. August. (絵を示しながら) He is a guest. (と言って FC の日本語の部分を見せる) He will talk about his work in Africa. The next word is 'photographer'. This word is difficult to say. Listen. Pho-tog-ra-pher. (音節ごとにゆっくり言ってやる) Repeat.

Mr. August takes a lot of pictures. It's his work. He is a photographer.

S: Photographer.

T: The third and fourth words are 'wildlife' and 'fund'. (FC の英語の部分) These words are parts of 'the World Wildlife Fund'. (FC の日本語) Mr. August works for the World Wildlife Fund.....とやっていって単語の導入をしつつ、本文の Oral Introduction をする。中学生には長く聞きつづけるのは退屈になりがちなので、Do you think Mr. August likes taking pictures? とか Are you interested in wildlife? など

の質問をはさむ。

発音練習は最後にまとめて、テープで行なう。

③基本文や重要表現の学習

授業では毎回プリントを出して、日本語/英語で situation を提示し英作文を書かせた。

〔例2 関係代名詞 who〕

Our junior high school is in Chikusa, but your friends live all over the city. Where do they live?

I have a friend who \_\_\_\_\_

Who? \_\_\_\_\_

What do your friends do well? どんな事が得意か。

I have a friend who \_\_\_\_\_

Who? \_\_\_\_\_

What do your friends have? 何か変わったもの持っている子いないか。

I have a friend who \_\_\_\_\_

Who? \_\_\_\_\_

また、1パート終わると dialogue は narrative に、あるいはその反対に narrative のものは dialogue に書換えさせた。

[例3 Lesson 4]

Mike wants to \_\_\_\_\_.  
 There are a lot of \_\_\_\_\_ there.  
 He wants \_\_\_\_\_.  
 That sounds \_\_\_\_\_.  
 Emi has \_\_\_\_\_ yet.

④授業ノート、練習ノート

初出の英文は和訳しないようにさせている。内容把握は概要を日本語／英語の質問で済ませている。しかし、どのレベルの生徒も和訳にこだわるのは確かで見逃すことができない。そこで1パートが終わる毎に「授業ノート」に対訳を家庭で書かせている。次回の授業で「確認」と称して訳を教師が言ってやる。また、1パートが終わる毎に「練習ノート」に単語10回、本文2回以上書写させ、1レッスン終わる毎に両者のノート点検を行なっている。さらにワークブックを持たせノート点検が終わるとワークの点検をする。

### 3. 指導を終えて

(1) 自由英作文について

中学3年生になると、どうしても1、2年生の復習に多く時間を取られたり高校受験など意識した授業になりがちで、上記の内容も必ずしもうまくやれたわけではない。また、(教科書)の内容も読応えがあるものが多くなり、読みこなすだけでも予定以上の時間がかかってしまう。そのため、英作文の処理は口頭で発表させたかったが、時間がとれず資料のような事後指導プリントで出したことが多かった。自由英作文の題からも分るように土地柄を説明させることが多かったため、例えばMy Townでは同じ名古屋の住んでいながらいろいろな環境のもとに友人が住んでいるのが分り興味深く読む者が多かった。

また、口頭で発表させたとしても声が小さく聞き取りにくいので、聞いている側の生徒があまり興味を示さないこともあった。そこで、教師が、書いた生徒の名前が分からないように英文を読んでやり、誰が書いたか当てさせることをするとがぜん張切って聞くようになった。その後英語の質問をしたり、おもしろい表現に注目させたり、ここをこんなふうに直すともっと良くなるなどとアドバイスを与えたりといった指導にも

興味を持つようになった。

自由英作文は誤りを恐れず書かせるわけだが、実際誤りが非常に多い英文がどの程度書き手の気持ちを伝えることができるのか気になるところである。二人のnativeに目を通してもらった。一人は在日期間が長く英語を教えることを職業としているためか、誤りがひどすぎることをまず指摘したが、言わんとすることはよく分かると言い、今一人は在日期間が短く語学教育とは無関係だがよく分かると言った。前者のnativeは伝わりさえすればよいという英語なら文法上の誤りが多くとも発音が良く vocabulary が豊富であれば communication は不自由しないと言った。しかし communication を不自由無くできる者が、おかしな英語を使っていると native には「気持ち悪い」(この部分だけ日本語)印象を与えるとのこと。

誤りに対し寛容である指導では、生徒によって使われる英語は過渡的なものと見なしている。この指導を通じ、生徒がもっと英語ができたならもっとよく書けるのになあという気持ちを持ってくれたら指導のねらいである表現意欲喚起はほぼ達成できたと言える。

(2) 日常の授業

普段の授業では発音、文法、綴りなど基礎・基本をきっちりとやり、自由英作文ではそれに目をつむる。矛盾があるようだが、英語学習への興味を失わせないためには効果は期待できる。

とかく英語と言うと生徒は覚えるだけでつまらなさと感想を述べる者が多いが、この指導を通じて「発信型英語」に少しでも興味をもってくれば、地道な英語学習に夢を抱いて取組めるのではないだろうか。

授業で毎回出すプリントは一種の英作文指導なのだが、直接和文を英訳させたり、単純な置換え作業にならないように工夫したつもりである。自分の頭で考えたり、以前に習ったことを思い出させたり、教科書を調べさせたりして「書く」力を身につけさせた。

ノート指導やワークブックの指導など、綴りや文法など基礎・基本を養うのに役立った。勿論このようなことは目新しいことは何もないのだが、自由英作文をやるからといってなおざりにされてはならないことだと考える。